

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Association between alcohol consumption during pregnancy and hypertensive disorders of pregnancy in Japan: the Japan Environment and Children's Study.

和文タイトル: 日本における妊娠中の飲酒と妊娠高血圧症候群との関連: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 宮城UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Hypertension Research

年: 2019 月: 1 巻: 42(1) 頁: 85-94

筆頭著者名: 岩間 憲之

所属UC名: 宮城UC

目的: 妊娠中の飲酒と妊娠高血圧症候群(Hypertensive disorders of pregnancy:HDP)との関連を検証すること。

方法: エコチル調査の全固定データを使用し、76,940人の妊婦を解析対象とした。MT1とMT2から得た飲酒情報を暴露要因、HDPをアウトカムとして、リンク関数をロジット関数とした一般化線形混合モデルを使用した。

結果: 解析対象者のうち、HDP発症者は2,348人(3.1%)であった。非飲酒者と比較して、MT1時点で飲酒継続し、かつMT2時点でエタノール量で150g/week以上飲酒していた妊婦は、HDP発症のオッズが有意に高かった。調整オッズ比:3.98, 95%信頼区間:1.33-11.9であった。

考察:(研究の限界を含める) 本研究は、日本の妊婦を対象として妊娠中の飲酒とHDPとの関連を報告した初の研究である。妊娠中の飲酒により、子宮らせん動脈のリモデリング障害および血管新生因子と抗血管新生因子の不均衡が引き起こされ、HDPのリスクが上昇した可能性がある。本研究はサンプルサイズが大きく、日本人妊婦への外的妥当性は高いと考えられる。研究の限界として、HDPのサブタイプ(妊娠高血圧と妊娠高血圧腎症)の情報が無いこと、HDP診断時期の正確な情報がないため早発型と遅発型に分類できなかったこと、血圧計の情報が無いこと、妊娠中飲酒量の変化の情報が無いことがあげられる。

結論: 妊娠中にエタノール量で150g/week以上の飲酒は避けるのが良いと思われる。また、妊娠中の飲酒状況を把握し、妊婦に禁酒を勧めることは、HDP発症予防の観点から有意義である可能性がある。